

日本共産党

磯城郡議員団だより

和也 Eメール info@k-shiba.jp
 芝西町結崎 8 6 2 - 7 0745-43-2415
 川原町大木 1 1 3 - 5 090-5257-4446
 吉田容工 Eメール katunori_yosida@ybb.ne.jp
 田原本町鍵 2 8 1 - 1 0744-33-8570
 森良子 Eメール qfndg008@ybb.ne.jp
 田原本町鍵 2 8 1 - 1 0744-33-8570
 (事務局) 池田年夫 Eメール uvkk87386@zeus.eonet.ne.jp
 三宅町屏風 4 4 0 - 5 0745-43-2661

脱税絡み企業から献金「返した」ですまない

野田首相 前原政調会長 蓮舫行
 副担当
 資金提供の経緯 説明を

野田佳彦内閣が発足しましたが、野田首相、蓮舫行政刷新・少子化・公務員制度担当相と、政権を支える民主党の前原誠司政調会長には、問題企業からの資金提供問題が横たわっています。それぞれ「返金した」などと釈明していますが、それではすまされません。

巨額脱税事件で有罪判決を受けた人物の関係企業から、野田首相が80万円、蓮舫氏が120万円、前原氏が100万円の資金提供を受けていました。前原氏は、この人物について、「6、7年前からの知人を介して知り合った」とのべ、この知人を野田、蓮舫両氏にも紹介したと明らかにしています。

虚偽記載

この問題企業からの献金が明らかになった発端は、前原氏の関連政治団体「まえはら誠司東京後援会」が2009年4月に開いた政治資金パーティーをめぐる虚偽記載でした。

50万円分のパーティー券を実際に購入したのは、東京都千代田区のコンスアルタント会社「メディアトゥウエンティワン」ですが、政治資金収支報告書には、会社名もその代表者名も、まったく違う記載でした。

「メディア」社の取締役を200

8年12月1日に辞任するまで務めていた実質的経営者は、04年5月、競馬予想の情報提供会社「ユー・エフ・ジェイ」の巨額脱税事件で逮捕され、有罪判決を受けた経歴の持ち主。また、1988年には、暴力団後藤組関係者に対する覚せい剤事犯集中取り締まりを実施していた静岡県富士宮署によって暴力団員とともに逮捕されたこともあります。

深まる謎

前原氏は、ことし3月2日夜、収支報告書への虚偽記載が明らかになった際、「事務所の誤認による記載ミス（パーティー券を購入した）会社名が事務所の名簿になく、パソコンで検索した画面の一つをそのまま記載してしまった」と弁明しました。しかし、会社名は、千葉県四街道市の類似した名前の映像制作会社で、代表者名は、東京都港区の同じく類似した名前の会社の代表者でした。

会社名、代表者名を混在して虚偽記載するというのは、いかにも不自然で、実際の購入者名を隠すためではなかったのか、との疑惑が指摘されています。

前原氏は今回、民主党代表選の出馬会場で、外国人献金について釈明。その際「過去に脱税事件に関与した人物の関係会社から献金を受けていた問題は、すでに返金を済ませている」「初めて会う人に、国籍はどちらですか、元暴力団ですか、とはいちいち聞かない」とのべました。しかし、資金提供の経緯など背景に関する説明がなければ、疑惑は深まるばかりで、説明責任をはたしたとはいえませんが、野田氏、蓮舫氏とも、国会で「道義的観点から返金した」などとしています。説明責任が求められています。

2011年9月4日(日)「しんぶん赤旗」

**財界直結・民自公翼賛体制
 対抗軸示し堂々と論戦
 市田書記局長が会見**

日本共産党の市田忠義書記局長は2日、国会内で記者会見し、同日発足した野田新内閣について、「財界直結内閣、事実上の民主、自民、公明の翼賛体制をすすめる内閣だ」と述べました。

市田氏は、「組閣前に経団連もつでを行い、自民、公明両党と党首会談を行ったのは野田氏が初めてだ」と指摘。経団連

東日本地震への

救援募金にご協力を

日本共産党は被災者の救済・支援のために、救援募金を呼びかけています。

【郵便振替口座】

0017017198422

名義は、日本共産党中央委員会です。

送金いただく場合は、振替用紙の通信欄に、かならず、「地震救援募金」である事を明記して下さい。「ご協力よろしくお願いします。」

磯城郡日本共産党議員団

の米倉弘昌会長から親交があり信頼できるといわれ、野田氏は、小泉内閣の経済財政諮問会議のようなものを復活させる考えを表明したことを紹介しました。

自公両党との会談でも、3党合意にもとづいて消費税増税などを協議していくことをよびかけたことが重大だと強調。組閣前にオバマ米大統領に電話して、日米同盟の深化を確約したこととあわせて、野田内閣の特徴が早くも浮き彫りになったと指摘しました。

市田氏はその上で、「これまでは、民主も自民も同じ土俵に乗っていても偽りの対立軸を示さないと成り立たなかったが、両者が同一化して変わらなないことがわかりやすくなった」と主張。「3党で悪政を進める危険性とともに、対抗軸をはつきり持っているのは日本共産党だけだ」ということが明瞭になっている」と述べました。

その上で市田氏は、「民自公翼賛体制と堂々と立ち向かい、日本の進むべき方向性を打ち出し堂々と論戦していく。国民の要求を実現していくため積極的に論戦を行っていききたい」と表明しました。

野田首相が自公両党に提案した協議機関の設置については、「3党で決めたことを国会に押し付けることは許されない。国会の開かれた場で議論を行うべきだ」と強調しました。

市田氏は、「子ども手当や高校授業料無償化の見直しをはじめ、消費税は4年間は上げないといっていたのに来年の通常国会で決めようとしている。選挙で公約した重要な柱を、国民の信も問わずに投げ捨てるのは許されない」と批判しました。

2011年9月3日(土)「しんぶん赤旗」

九月議会で再度提案

先の六月議会で田原本町議会は、「御所・田原本環境衛生事務組合への五条市の参入に反対する決議」を全員賛成で採択しました。私は、議員として、政治家として判断したことには責任をもちております。

先日、町長に伺うと、五条市が参入したい意向を示していることをご存知だったそうです。それにもかかわらず、議会には何も説明されませんでした。何も聞かされず、御所市と田原本町と2市町で建設すると思っ御所市との会合に臨まれた議員は、さぞびっくり

されたと思います。ところが、町長は、この九月議会上に「御所市の参入」の議案を追加議案という形で提案されるそうです。時間があつたにもかかわらず、いつも突然提案するスタイル。ちゃんと説明する自信が無いんでしょね。

日本共産党議員団が指摘している「御所に清掃工場を建設すると、住民サービスが後退する」ということに対しても、充分検討されたという報告はありません。町長は、真剣に清掃工場について考えておられるのか？真剣さが伝わってきません。

田原本町議会議員
吉田 容一



質問時間増なるか？

台風ですが、四国と中国地方の真ん中辺りを南北に通過してくれました。川西町では大きな影響を受ける事無く済みましたが、紀伊半島を中心に広範囲に被害をもたらしました。県南部でも相当の被害が出ているようでありまして、事態は深刻です。

災害発生時に自分が居る場所との時間的や空間的な関係で明暗が分かれますが、どこでどう言う状態に遭遇しようとも、日ごろの備えの違いが分かれ目に繋がりますんで、自然が猛威を振るう度に教訓化する事をお互い肝

に銘じましょう。

さて、川西町九月議会が九日から二〇日までの十二日間で組まれました。一般質問は九日です。私は今、審議が十分に尽くせるように、質問時間の確保と質疑の回数増を提案しています。現状は、一般質問が持ち時間三分、質疑回数二回が妥当との意見が議会の大勢を占めています。質問時間増には至りません。

私としては、一般質問は一人一時間、質疑回数は最低、全国町村議会の標準会議規則が示す三回を呼びかけています。

川西町議会議員
芝 和也



救援美術展の歴史

弾圧犠牲者、「冤罪」裁判などを支援するために、全国で行ってきた救援美術展が6月から中止になり、3日、大阪市内で救援「美術展のつどい」が開かれ、参加してきました。

救援美術展の発足は、1966年ごろ、国民救援会本部が火事になり、事務所建設のため、資金をどうして集めようかということになり、大阪では川上貫一(衆議院議員)さんや著名人に色紙や絵画を寄贈して頂き、資金を寄付していただいた方に色紙や絵画を贈呈することにした。それは事務所の建設だけでなしに、当時の白鳥事件の現地調査の費用、大阪の吹田・宮崎事件の裁判費用などに充てられた。

この事から学んでその後弾圧犠牲者、「冤罪」

事件を支援するため全国で「冤罪」被害者を支援する美術家や著名人などから絵画や色紙、彫刻などを提供してもらい、救援美術展として全国の救援会の会員などが実行委員会を作り開催。事件支援の寄付をいただいた方に絵画などを渡し、事件支援の費用に充てられたと当時を知る宇賀神直弁護士から報告がありました。

三宅町
池田 年夫



まほろば平和音楽祭に参加して

台風十二号の接近で開催が危ぶまれた第七回まほろば平和音楽祭は、3日(土)河合町のまほろば大ホールで無事、開催されました。

邦楽、混声合唱、jポップ、ピアノ独奏、女性合唱、フォーク、朗読、テノール独唱、と内容は幅広く、心が洗われるような美しいものでした。

そんな中でロビーで開催されていたプロカメラマンがとらえた特別写真を「東日本大震災の現場をゆく」を見て、大きな衝撃を受けました。新聞やテレビで幾度も見えた震災現場とは、全く違った迫力と真実が写し出さ

れていました。

特に私が釘付けになった一枚の写真は「大津波にのみ込まれ、樹木は傷つきながらも満開の花を咲かせる桜の木」でした。山のようなガレキの中でも土手に並んで咲いている見事な桜！あまりにもひどいこの惨劇の中でも「春になれば咲かねば」と自分の使命を知ってか、けな気に一生懸命咲き誇っている桜。私はこの一枚の写真から、「大自然に痛めつけられても、自然を恨むことなく、たくましく誠実に生きていくことをしなさい」と教えられたよう気がしました。

田原本町議会議員
森 良子

